

地域教材を生かした社会に開かれた教育課程の推進

～児童のシビックプライドの醸成と行動変容を目指して～

宇和島市立遊子小学校 西原 睦美



本研究の目的と内容

＜目的＞ 地域教材を活用し、総合的な学習の時間を核として社会に開かれた教育課程を推進することで、児童のふるさとに対するシビックプライドを醸成し、行動変容につながるか検証する

＜内容＞ 1. ESDの単元構想案の作成と学習指導案の検討
2. 授業実践
3. 成果物を基にした他者への発信

＜研究参加者＞ 遊子小学校6年生の児童7名
＜実践期間＞ 2023年4月～2024年1月

研究の実際1

＜ねらい＞

目指す児童像を明確にし、年間を見通して意図的・計画的に学習を進められるよう、単元構想（カリキュラムマネジメント）案を作成し、学習指導案の検討を行う

＜総合的な学習の時間「遊子の防災大作戦！」単元構想案＞

小学校6年生 総合的な学習の時間「遊子の防災大作戦！」(全25時間) 【ストーリー】

「ふるさとを愛し、たくましく生きる児童の育成」

「ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」

～地域ならではの教育資源を活用した体験学習を通じて～
学校の力、家庭の力、地域の力を活かすことで、「地域とともにある持続可能な学校づくり」を目指す。

総合的な学習の時間を中心とした各教科とのつながりを意識した授業実践を展開する。

総合的な学習の時間（避難路、防災、ドローンを活用したマップ作り・マイタイムラインの作成）
道徳科（防災復元の願いを実現する政治）
理科（生物の暮らしと環境）
社会科（防災復元の願いを実現する政治）
家庭科（食の安全と安心）
算数科（防災復元の願いを実現する政治）
国語科（防災復元の願いを実現する政治）

「自分の命は自分で守る」を基本として、
①自分の考え、行動を尊重する
②ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる児童の育成のために、
③自分の力を発揮し、他者と協力しあうことができる児童の育成を目指す。

○本単元の学習目標

11 住み続けられるまちづくりを 13 気候変動に具体的な対策を
○この学習を通して育てたいESDの価値観

・気候の公正
遊子や子どもたちのために避難路を作った人たちの苦勞や努力に感謝し、遊子の命を守るための次の世代へきちんと引き継がなければならない。
・気候の公正
美しい遊子や命を守るための活動は世界とつながり、課題解決に苦しむ人たちのことも考え、自分たちの行動や行動を振り返りて改善する必要がある。
○この学習を通して育てたいESDの価値観

・批判的に考える力（クリティカルシンキング）
調べ学習から実際の災害時に、本当に今の備えが有効かを見つめ、よりよい方法について考えることができる。
・未来を予測して計画を立てる力
これまでの資料やインタビューから活動や関わり方などの考えや思いを整理し、今後のために自分たちに何が出来るかを考えることができる。
・多面的・総合的に考える力（システムズシンキング）
他者の意見や思いを踏まえた中で、物事をより多面的・総合的に考え、どのような課題があるか、その改善策について考えることができる。
○この単元で育てたいESDの価値観（見方・考え方）
・気候の公正・・・気候、様々な事象は、全てつながりがある。
・公正性・・・自分自身、自分自身、今を生きるだけでなく、後世の子どもたちにも、自分自身で責任を負うことができるように、自分の行動が大切である。

「防災復元の願いを実現する政治」
算数科「表とグラフ」「図形の拡大と縮小」
理科「生物の暮らしと環境」他
家庭科「持続可能な社会を生かす」他
様々な教科の学びをつなぎ、カリキュラム・マネジメントにより総合的な学習の時間の学びと共に深めていく。

「私たちにできること」
資源や環境を大切にすることが防災につながることを知り、自分たちの生活が、互いの助け合いや協力によって成り立っていることを理解し、感謝する心を育てる。
「せんぱいの心を大切に」
先輩たちの取組を振り返ると共に、自分たちが出来ることを考え、今回の学習を次につなげるよう意欲を高める。

研究の実際2

＜ねらい＞

単元構想案、学習指導案を基に各授業を実践することで、児童の心理的変化、行動変容を目指す

＜総合的な学習の時間 授業展開例＞

8 本時の指導

(1) 目標
新制作物のプレゼンを通して、自分の思いや考えを伝え、家族や地域、外部の方からの評価や改善点を伺いながら相互交流を行い、よりよいものに仕上げようという意欲を高める。

(2) 準備物
学習の成果物、タブレット端末、ワークシート

(3) 展開

学習活動	時間	児童の意欲の流れ	指導上の留意点◎評価
1 本時のめあてと流れを確認する。	3	① 防災について、学んだことを上手にまとめることができた。 ② みんなに見てもらって、もしものときに役に立てようという意欲を高める。	◎ これまでの学習を振り返らせ、よりよいものを完成させようとする意欲を高める。
2 各組でプレゼンする。聞き手のアドバイスや感想等から、よりよい方法を改善点を探る。	27	① グループでまとめた内容をプレゼンする。 ② 聞き手が、内容に関する感想やアドバイスを伝える。 ③ 発表者が、発表内容に関する感想やアドバイスを伝える。 ④ 発表者が、発表内容に関する感想やアドバイスを伝える。	◎ 聞き手を3か所に分け、各グループが移動しながらプレゼンを行うよう設定する。 ◎ プレゼンの時間は5分とし、聞き手の交流を4分行うことを伝える。 ◎ 話し手の発表を提示することで、理解の受け手によってより望ましい内容方法について考えられるようする。 ◎ 話し手の内容は、タブレット端末に記録し、振り返りを全体で確認できるようにする。
3 防災に関する専門家の話を聞く。	5	自分たちの防災について、よりよいものにしたいという意欲を高める。 自分たちの防災について、よりよいものにしたいという意欲を高める。	◎ 防災に関する専門家の話を聞く。 ◎ 自分たちの防災について、よりよいものにしたいという意欲を高める。
4 学習を振り返り、夜時の活動への見直しをする。	10	自分たちの防災について、よりよいものにしたいという意欲を高める。 自分たちの防災について、よりよいものにしたいという意欲を高める。	◎ 振り返りを全体で行うことで、本時の学びを全体共有し、次への意欲を高める。

防災にもつながっているということを知ってほしい。より多くの人に協力してもらえたらと考えた。
（この活動より）
・ 自分たちの防災について、よりよいものにしたいという意欲を高める。
・ 自分たちの防災について、よりよいものにしたいという意欲を高める。
・ 自分たちの防災について、よりよいものにしたいという意欲を高める。

自分たちの防災について、よりよいものにしたいという意欲を高める。
自分たちの防災について、よりよいものにしたいという意欲を高める。

自分たちの防災について、よりよいものにしたいという意欲を高める。
自分たちの防災について、よりよいものにしたいという意欲を高める。

＜カリキュラムマネジメント＞

小学校6年生 総合的な学習の時間「遊子の防災大作戦！」(全25時間)

現在の学年終了時に目指す姿
「自分の命は自分で守る」を基本として防災に関する知識や実践力を高め、ふるさと遊子を大切に思い、家族や地域の人のために自主的に考えて行動することができるように、自分の力を発揮して、他者と協力しあうことができる。

学校裏の避難路ができて、早く避難できるようにになった。
もしものとき、本当に自分の命を守れるだろうか。
今の備えで、大丈夫だろうか。

総合的な学習の時間「遊子の防災大作戦！」
①主に養いたい ESD の資質・能力
批判的に考える力（クリティカルシンキング）
調べ学習から実際の災害時に、本当に今の備えが有効かを見つめ、よりよい方法について考えることができる。
未来を予測して計画を立てる力
これまでの資料やインタビューから活動や関わり方などの考えや思いを知ってふるさと遊子を大切に思う気持ちをもち、今後のために自分たちに何が出来るかを考えることができる。
多面的・総合的に考える力（システムズシンキング）
他者の意見や思いを踏まえた中で、物事をより多面的・総合的に考え、問題解決に力付けたり、その改善策について考えたりすることができる。

道徳科（東京書籍）
「土石流の中で救われた命」
自分たちの生活が、互いの助け合いや協力によって成り立っていることを理解し、感謝する心を育てる。
「せんぱいの心を大切に」
先輩たちの取組を振り返ると共に、自分たちが出来ることを考え、今回の学習を次につなげるよう意欲を高める。

国語科「私たちにできること」
資源や環境を大切にすることが防災につながることを知り、自分たちの生活が、互いの助け合いや協力によって成り立っていることを理解し、感謝する心を育てる。
「せんぱいの心を大切に」
先輩たちの取組を振り返ると共に、自分たちが出来ることを考え、今回の学習を次につなげるよう意欲を高める。

幸せな生活は、家族や地域の人々の支えがあるからだ。
自分自身で出来ることはなんだろう。今回の学びを次につなげるよう意欲を高める。

＜結果と考察＞

・展開例に示した授業では、学習内容をまとめた防災だよりをゲストティーチャーと共に検討することで、様々な視点からの意見や児童の頑張りを称賛する声をいただき、学習意欲の向上や成果物の質の向上につながった
・カリキュラムマネジメントは、児童の学びを広げ、深めるのに効果的だった

研究の実際3

＜ねらい＞

学習を通して作成した成果物を地域をはじめとする他者へ発信することにより、児童の自己有用感を高める

＜避難路に関する 冊子作成＞ イエローフラッグ配付＞

私たちの新たな避難路

宇和島市立遊子小学校
令和9年度 6年生

自分たちの防災について、よりよいものにしたいという意欲を高める。
自分たちの防災について、よりよいものにしたいという意欲を高める。

＜学習指導案 一部＞

小学校6年生	5 単元の指導計画 (全25時間)	ねらい・学習活動	知 思 態	教科等との関連
授業中(10)	1 学校裏の避難路ができた経緯を調べる。 ・学校裏には作れないと言われていたのに、たくさんの人のおかげで完成した。 ○避難路の場所が変わったことから学習課題を立て、意欲を持って考えようとする。完成までの様子やイメージを写真や動画で記録する。	○学習への意欲	①	【国】「避難路」 【理】「命の大切さ」
自分たちで出来ること(10)	2 避難路のすばらしさを多くの人に紹介したい。 ・完成式典を利用して、たくさんの人に避難路について伝えたい。 ・どうすれば分かりやすく紹介できるだろうか。 ○これまで取り組んだ学習を3グループ（避難路完成までの経緯・関係者へのインタビュー・イエローフラッグ）に分かれて発表することを提案する。	①	①	【国】「私たちにできること」 【理】「命の大切さ」 【道】「防災復元の願い」
前回の学習を振り返り(10)	3 避難路を維持するにはどうすればいいか話し合う。 ・地域の方に頼っているだけでなく、自分たちで出来ることを考えたい。 4 災害時に生かせる防災マップを作成する。 ・実際の災害時に、自分たちがどう行動すればいいのだろうか。地域の実情はどうだろうか。 ○防災に関するより具体的な知識を得られるよう、外部講師を招く。 5 自然災害が多くなっているのはどうしてか、調べる。 ・自然災害が多くなっている理由は何だろうか。自分たちの生活にどんな影響があるのだろうか。 6 取組を振り返り、学んだことを地域のために生かす方法を考える。 ・学んだことを発表するために防災だよりをまとめる。 7 発表する内容をまとめる。改善点を加えながら、よりよいものに仕上げよう。 ・どのような方法をすれば、より分かりやすくなるだろうか。 ○よりよいものになるように、他者からの意見を聞く機会を設ける。（本時）	②	②	【国】「私たちにできること」 【理】「命の大切さ」 【道】「防災復元の願い」 【算】「自分たちの防災」
	8 「遊子の防災大作戦！」だより」を完成させ、地域へ発信する。 ・これが防災や避難、地域の命を守る役に立つといいな。 ・自分自身で出来ることを考えたい。	③	③	【国】「私たちにできること」 【理】「命の大切さ」 【道】「防災復元の願い」 【算】「自分たちの防災」

＜結果と考察＞

・本校だけでなく、ESDティーチャープログラムで、他校の先生にも意見や助言をいただくことにより、自分の考えがより明確になり、新たな取組を加えることができた
・単元構想案を年度初めに作成することは、年間の学習内容を見通し、各教科のつながりを考える上で大変役立った
・目指す児童像を明確にすることで、教育課程や授業の取組等に系統性・継続性が生まれ、児童の意識が途切れることなく、授業内容も深まった
・質問紙(icheck)の回答から、児童のふるさとに対する愛着、学習に対する必要感、自己有用感等にプラスの変容が見られた
・様々な場面で、自分たちで考えて意見を出し合い、行動する場面が多く見られるようになった

＜防災マップ作成＞



＜学習発表会＞



＜防災だより配付＞



＜結果と考察＞

・他者からの称賛を喜び、学習を重ねるごとに、自信を持った発言、より意欲的な言動が見られるようになった
・児童自らが探究的に課題追究を行おうとする様子は見られなかった

成果○と課題●

- 地域教材を活用し、総合的な学習の時間を核として各教科を関連付けながら学習を進めることは、児童のふるさとに対するシビックプライドの醸成や、行動変容に役立つ
- ゲストティーチャーや専門性のある講師が授業に参画することにより、授業の質が高まり、児童の学びも深まる
- 6年間を通じた探究的な学びにつながる系統性・継続性のある教育課程の構築ができていない
- 外部組織・人材等とのより持続可能な連携と組織づくり